

環境調和型先端実装技術 成果報告会2013

- 主催：実装技術標準化専門委員会
- 担当部署：知的基盤部
- 参加者数：約100名

概要

JEITA/実装技術標準化専門委員会では、1997年から継続して鉛フリー化活動に取り組み、本報告会を通じて成果の普及に努めてきました。

また、JEITAの領域に留まらない業界横断的な課題については、国家プロジェクトとして取り組み、その成果の国際標準への移行状況についても広く周知するようにしています。

今年は、3か年の活動の最終報告となるMETIプロジェクト『フロー槽材料の長期信頼性に関わる各種特性の評価試験方法に関する標準化活動』と、最終報告書ETR-7028の発行を完了したJEITAプロジェクト『第2世代

リフロー用鉛フリーソルダーペーストの標準化活動』の2テーマに関する報告を軸として講演を行いました。

さらに、2016年に改定予定のRoHS適用除外対象の動向といった業界全体で関心の高いテーマ、今年度から事業がスタートしたMETIプロジェクト『部品内蔵基板の設計データフォーマット』の概要、スマートコミュニティに不可欠な要素であるカーエレクトロニクスの基礎を支える「高温鉛入りはんだの鉛フリー化」といった、いま、業界が直面している課題やトピックスを多数盛り込みましたところ、活発な質疑応答が交わされ、大変有意義なものとなりました。



プログラム

○主催者挨拶

JEITA 実装技術標準化専門委員会 委員長 岡本正英 氏 (株)日立製作所

○来賓挨拶

経済産業省 商務情報政策局情報通信機器課 デバイス産業戦略室長補佐 浅川浩二 氏

○「極小表面実装部品の新しいぬれ性試験方法」

平本 清 氏 (山陽精工(株))

○「部品内蔵基板の設計データフォーマットの国際標準化」への取り組み

IS-INOTEK 春日壽夫 氏

○「EU-RoHSを中心にした世界の製品含有化学物質規制の動向について」

波多野太郎 氏 (株)村田製作所

○「高温鉛入りはんだの鉛フリー化への取り組み (その3)」

芹沢弘二 氏 (千住金属工業(株))

○METIプロジェクト「3年目の取り組みについて」

大阪大学 名誉教授 竹本 正 氏

芹沢弘二 氏 (千住金属工業(株))

○「窒化処理膜などの拡散タイプ処理膜の損傷メカニズムと評価試験方法」

群馬大学 大学院 工学研究科 機械システム工学専攻 教授 荘司郁夫 氏

○「セラミックコート膜などのコーティングタイプ膜の損傷メカニズムと評価試験方法」

大阪大学 接合科学研究所 スマートプロセス研究センター 准教授 西川 宏 氏

(一財)日本電子部品信頼性センター 環境試験所 所長 佐々木喜七 氏

○「フロー槽材料の耐エロージョン性評価試験方法のIEC及びJIS規格化状況」

荒金秀幸 氏 (ソニー(株))

○「JEITA 第2世代低銀系ソルダペースト標準品の市場動向」

大田健吾 氏 (千住金属工業(株))

○「JEITA 第2世代低銀系ソルダペースト標準品の採用事例」

荒金秀幸 氏 (ソニー(株))

○「SAC系はんだ接合寿命予測に関する苅谷モデルの実証実験」

山本 剛 氏 (富士通アドバンステクノロジー(株))

○「Sn-Bi共晶合金の変形機構と疲労寿命」

芝浦工業大学 工学部 材料工学科 教授 苅谷義治 氏